

「類ありて比なし」の精神 (日の出屋製菓産業株式会社)

＜法人の概要＞

所在地：富山県南砺市

設 立：昭和29年

資本金：8,000万円

売上高：36億円（平成26年）（うち農業：600万円）

役員数：4名（うち農作業従事者1名）

従業員数：330名（うち農業従事者3名）

経営面積：0.8ha 営農作物：アスパラガス、ショウガ、サツマイモ等

農業開始時期：平成22年3月



自社で設置したビニールハウス

＜農業参入に至った経緯・動機＞

本法人は、大正13年に「かきやま屋」（方言：米菓屋）として創業以来90年、臼と杵による餅つきなど、製造工程の1つ1つにこだわりを込めた、あられ・かきもちづくりに徹している。

精米も自社で行っており、精米時に発生する「米ぬか」の有効利用を図るため、平成8年頃から肥料化の取組を進めている。

また、「地域に貢献できる企業でありたい」との思いから、各種地域振興プロジェクトにも積極的に参加するとともに、農業への参入についても社内で検討を行っていた。

この様な中、社員の地元集落の農業者が農地の引き受け手を探していると言う話が持ち上がってきたこと及び改正農地法の施行に伴い、一般法人の農業参入がどこでも可能となったことから、農業に参入することになった。

〈農業参入することを決めてから営農開始まで〉

参入にあたっては、取締役1名を新規事業部長とし、農業従事者として定年退職予定の社員2名を雇用延長し、配置した。

農業機械については、トラクターとフォークリフトは自社で購入したが、その他の機械については農地所有者等の機械を借り受け、初期投資の軽減を図った。

営農技術については、新規事業部長が営農技術を習得していたこともあり、農地所有者や富山県砺波農林振興センターの普及担当と相談しながら栽培を行った。

〈営農開始から現在まで〉

現在、借入農地0.8haを5団地に分け、うち2.5団地ではアスパラガスを、残る2.5団地では、露地で生姜、サツマイモ等を、ビニールハウス（9棟）ではキュウリ、トマト等の作付けを行っている。

収穫物については、自社の直営店で採れたての状態で販売しているほか、生姜については、自社の米菓製品の副材料としての使用に加え、地元の醸造企業と連携を図り「生姜のめぐみ」（商標登録済み）というシロップ飲料へ加工し販売している。

また、自社精米時に発生する米ぬかを利用し自社で加工した米ぬかボカシ肥料を使用し、循環型農業への取り組みも進めているほか、この肥料を近隣の稲作農家や柿・梨等の果樹農家にも利用してもらい好評を博している。

このほか、毎年秋開催の工場祭で地域住民向けの「いも堀体験」等を実施し、地域住民との交流を深めている。

〈今後の農業経営の展開方向〉

「地産地消」を実践するため、米菓商品の主原料は富山県産米を100%使用しているが、副原料に関しても富山県産で賄いたいと考えており、現在生産している生姜に続きゴマ等についても順次生産する予定としている。なお、副材料の生産については、自社農場だけではなく、周辺農家との連携も視野に入れた展開も検討している。

また、米菓以外の加工販売として、現在、直営店で試験的に販売中の干し芋や芋納豆、生姜納豆等のいわゆる素材菓子の分野への取り組みも、今後積極的に進めていく方針である。



ハウス内部（白菜ほか）



生姜畑と「生姜のめぐみ」